

腎静脈血栓症

1. 疾患名ならびに病態

腎静脈血栓症

2. 小児期における一般的な診療

◇ 主な症状

腎静脈内に血栓が形成される。血尿、タンパク尿を認める。腎機能も一時的に低下する場合がある。

◇ 診断の時期と検査法

過凝固状態、周囲からの腎静脈圧迫、循環血液量減少、下大静脈からの血栓の進展など種々の病態が原因となる。過凝固状態には先天性と後天性がある。小児ではネフローゼ症候群に伴う腎静脈血栓症が最多である。ネフローゼ症候群では、循環血液量減少、過凝固状態、浮腫などいくつもの要因が重なっていることが多い。超音波などの画像診断では血栓側の腎が腫大している。画像検査としてカラードプラーエコーが有用である。造影CT、MRIも有用であるが造影剤の使用は腎機能に留意する必要がある。

◇ 経過観察のための検査法

凝固異常などの原疾患があれば血液検査

◇ 治療法

外科的血栓除去術は原則として行われない。線溶療法や抗凝固療法が行われるが出血による合併症に留意する必要がある。

◇ 合併症および障がいとその対応

罹病期間や重症度によっては尿所見や腎機能に長期間異常を認める場合がある。

3. 成人期以降も継続すべき診療

◇ 移行・転科の時期のポイント

ピルや化学療法剤など主に成人に投与する薬剤により血栓症が再発する可能性があるため、小児年齢以後は速やかな移行・転科が望ましい。

◇ 成人期の診療の概要

血栓症の再燃に留意する。

4. 成人期の課題

◇ 医学的問題

再び疑われる症状が出現した場合に適切な検査を行う。

◇ 生殖の問題

治療薬により流産などの発生確率が高まる可能性がある。

◇ 社会的問題

無症状無投薬では特に留意すべき問題はない。

5. 社会支援

◇ 医療費助成

小児慢性特定疾病では番号：15 疾病名：腎静脈血栓症

指定難病では腎静脈血栓症という疾病名はない。他の指定難病に起因して発症する場合、その指定難病の医療費助成の対象となる。

◇ 生活支援

後遺症による身体障害がない限り必要なことはない。

◇ 社会支援

無症状無投薬では特に要さない。

【参考文献】

https://www.shouman.jp/disease/details/02_10_030/

小児腎臓病学 改訂第3版 日本小児腎臓病学会(編) (診断と治療社)

【文責】

日本小児腎臓病学会